综合日语教程

四院校日语教材编委会　编

天津[illegible]版社

综合日语教程

四院校日语教材编委会　编

天津大学出版社

1990年·天津

内 容 提 要

本书是大连理工大学、天津大学、哈尔滨科学技术大学、浙江大学等"四院校日语教材编委会"组织编写的综合性日语教材。内含精读、泛读、会话与听力和总词汇表四部分。除会话部分外，其余部分的文章均选自新近出版的日语原文书刊。全书题材丰富，体裁多样，例句典型，练习适量，形式生动活泼。课文、语法、词汇、解释和练习配合密切。使用本书可收到扩展语法知识，提高读、听、译、写、说的能力之效果，并在《大学日语教学大纲》规定的四级基础上增加2000个以上的词汇。

该书所配录音磁带和教学参考书同时出版。

本书可供主修日语的大学高年级本科生和研究生作为教材，亦可供有较好日语基础的大学专科生、科技人员及日语爱好者提高日语水平使用。

综合日语教程
四院校日语教材编委会 编
•
天津大学出版社出版
（天津大学内）
沈阳新华印刷厂印刷
新华书店天津发行所发行
•
开本：850×1168毫米 1/32 印张：20 字数：530千字
1990年7月第一版 1990年7月第一次印刷
印数：1—2900
ISBN 7-5618-0185-8
H·5 定价：4.40元

综合日语教程

编 委 会

顾 问　肇永和

主 任　田世昌

委 员　（以姓氏笔划为序）

刘启震　乔　荫

郑玉和　姜荣耕

靖立青

前　言

本教材是由大连理工大学、天津大学、哈尔滨科学技术大学、浙江大学等“四院校日语教材编委会”组织编写的一部综合性日语教材，供高等院校学习日语的大学生、研究生和具有一定日语基础的广播、函授、夜大学生、科技人员及日语爱好者使用。

教材由精读、泛读、会话与听力以及教学参考书等部分组成。教科书与教学参考书单独成册，会话与听力另配录音磁带，供180～210学时使用。

教材的编写目的是：通过大量阅读与反复练习，增加词汇量，加深并扩展语法知识，提高熟巧程度、阅读速度和质量，以具备较高水平的阅读能力、较强的听译能力、一定的写、说能力，重点培养综合运用日语的能力。

教材中的文章，除会话材料外，均选用日语原文。全书题材丰富，体裁多样，形式活泼，内容生动，例句典型，练习适量。选材注意思想性、科学性、先进性、实践性和趣味性。

教材的各个组成部分之间，在课文、语法、词汇和解释、练习等方面相互配合，密切联系，彼此呼应，既形成一个整体，又各有一定的独立性。因此，在教学中既可全部使用，又可部分选用。教科书后附有总词汇表，按五十音序排列，可供查阅生词。教学参考书附有参考译文、练习解答、听力书面材料等，可供教师备课和读者自学参考。

本教材承商务印书馆编审李思敬先生审阅，使教材在原基础上有较大的改进和提高，谨此聊表谢忱。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

本教材的试用本先后为许多兄弟院校所采用，在使用过程中多所指正，在此一并表示感谢。

编者水平有限，缺点、错误在所难免，恳请批评指正。

四院校日语教材编委会

1989年8月

目　录

精　读

说　明……3
第一課　生きがいというもの……5
第二課　自然と人間……17
第三課　ライフサイエンスとは……32
第四課　帰ってきた機械・ロボット……45
第五課　日本語の性格を知ることは……59
第六課　民族と文化……76
第七課　ユーモア感覚のすすめ……92
第八課　明日への希望について……109
第九課　一枚の葉……120
第十課　とてもいい心臓です……133
第十一課　キツネと馬引き……146
第十二課　幸福（一）……163
第十三課　幸福（二）……180

泛　读

说　明……203
第一課　1．学生生活……205
　　2．暑中見舞いのいろいろ……211
　　3．電報文の書き方……212
第二課　1．時候のあいさつ……215
　　2．一万百二十円の借金……224

3. 「読む」とはどういうことか ……227
第三課 1. (1) 先端技術の影響を探る ……233
(2) 先端技術開発を支える周辺と要素 ……234
2. (1) マトリックスで、ニーズと応用分野を追求する ……237
(2) 新しい生体材料の可能性 ……238
3. (1) 磁気浮上鉄道——時速500kmへの挑戦 ……240
(2) 交通システムと電気自動車の将来 ……242
第四課 1. (1) パワー・プラントとしてのエンジンの種類とその働き ……244
(2) 内燃機関に替わるもの——次世代エンジンは何か ……245
2. (1) ロボットの進化と応用法 ……248
(2) 無血手術の夢——医療用レーザ ……249
3. (1) 次の次は何か ……252
(2) 21世紀を予測する ……253
第五課 1. 国際会議もニュー・メディアで——現実化したテレビ会議 ……256
2. (1) 通信衛星の時代 ……259
(2) 眼・耳・口の役割を果す——パターン認識・音声認識・音声合成 ……260
3. (1) 生活をエンジョイするホーム・オートメーション ……263
(2) 在宅勤務は実現するか ……265
第六課 1. 電子情報人間が時代のカギを握る ……268
2. (1) エイズが襲う ……273
(2) エイズが襲う ……276
3. コンピュータと子供たち ……279
第七課 1. 「あいさつ」にはお国柄があらわれる ……285

2．表情・動作はマナーの基本 ……292
3．おじぎのしかた——会釈・普通礼・敬礼 ……297
第八課 1．笈を負う ……302
2．自分の人生は自分の手で拓く ……307
3．失敗を恐れずに ……315
第九課 1．テレは語学の大敵となる ……320
2．口を開き、耳をすます ……326
3．自国語をしっかりと身につける ……331
第十課 1．池田弥三郎君とオウム ……338
2．「ラブ」と「好き」との差 ……344
3．男女の差別はもうないか？ ……349
第十一課 1．敬語・敬称の使い方 ……354
2．質問のすすめ ……363
3．私は「女言葉」を教えている？！ ……368
第十二課 1．古着物もケバ立った畳も「すばらしい！」——日本を見る眼 ……373
2．休暇と観光 ……378
3．「東京にはアメがない…！」 ……385
第十三課 1．「はい、私はとてもよくできます」 ……391
2．鎖国とラーメン ……398
3．旅は買物 ……404

会话与听力

説　明 ……413
第一課 会　話 合格通知が来た ……415
ヒヤリング 大学生・佐藤浩君 ……425
第二課 会　話 入学式の朝 ……426
ヒヤリング 大学生・林真理子さん ……434
第三課 会　話 先生の家を訪問 ……436

ヒヤリング　中村さん一家 ……446
第四課　会　　話　研究テーマのうち合わせ ……449
ヒヤリング　日本 ……458
第五課　会　　話　実験室の一日 ……460
ヒヤリング　日本の首都 ……469
第六課　会　　話　資料の収集 ……471
ヒヤリング　教育 ……480
第七課　会　　話　研究発表会に備えて ……482
ヒヤリング　東京の主な産業 ……490
第八課　会　　話　より良い仕事を求めて ……491
ヒヤリング　職業 ……501
第九課　会　　話　電話で連絡 ……503
ヒヤリング　交通 ……512
第十課　会　　話　中村先生ようこそ（1） ……514
ヒヤリング　住宅 ……523
第十一課　会　　話　中村先生ようこそ（2） ……525
ヒヤリング　食生活 ……532
第十二課　会　　話　歓迎会 ……534
ヒヤリング　高齢化社会 ……544
第十三課　会　　話　帰国を前にして ……546
ヒヤリング　交際 ……555
总词汇表 ……557

综合日语教程

精　读

主　编　靖立青

副主编　郑玉和

编　者　（以姓氏笔划为序）

马金淼　王希时

刘文祥　齐秀茹

郑玉和　黄瑞金

靖立青

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

说　明

“精读”是根据“四院校日语教材编委会”制定的《综合日语教程》编写大纲编写的，是该教材的有机组成部分。

一、特点

1．本书的课文全部选自近年出版的日语原文书刊。

2．题材广泛，文体多样，语言规范，自然流畅，具有趣味性。课文包括文学作品、科普文献、语言论述等各种体裁的文章，以期使学员开扩视野，熟悉不同体裁的日语文章所具有的不同风格。

二、目的

1．培养学员综合运用语言的能力，提高学员的阅读、理解、翻译能力和初步的写作能力。

2．加深与扩展语法知识，增加1000～1200个新词，对约40组近百个同义词进行辨析，以提高准确理解并运用词语的能力。

三、结构与学时安排

1．共13课。每课依次为“本文”、“注釈”、“ことばの表現”、“類義語の比較”和“練習”。

（1）“ことばの表現”除收有语法、词汇和句型外，适当地收入了一些综合性、实用性较强的内容，这将大大有助于提高学员的语言技能。

（2）“類義語の比較”，对日语中意义用法容易混淆的常用同义词进行简要、明了的解析，以提高学员对日语词汇运用的准

确性。

（3）“練習”分为“練習一”和“練習二”两部分。前者是紧密结合课文或讲解内容的基础性练习，后者是归纳、综合性练习。

2．供约90学时使用，也可据情伸缩。

本精读教材在编写和修订过程中，得到日籍专家高顺义先生和日籍教师伊藤宽的热情协助，谨此致谢。

编　者

第一課　生きがいというもの

湯川秀樹

皆さんは若い。皆さんは，長い前途を持っている。これから先，平均して六十年近くは生きるであろう。ということは，皆さんは，二十世紀と二十一世紀にまたがって生きていくことになる。その間に，いったい世界はどのように変わるであろうか。二十世紀の初めから六十数年間に，世の中がどのくらい変わったかをふり返ると，これから先の五十年，六十年という間には，はかり知れない大きな変化があるだろうということが，はっきりしてくる。

人間の世の中は，いったい，どうして変わるのだろうか。もちろん，地震や台風や洪水などの自然の力による世の中の変化も考えられるが，その影響は，一時的には非常に大きなものであったとしても，決して長続きするものではない。長い目で見ると，世の中の大きな変化は，おもに人間の営みによってもたらされているものであるということがいえるだろう。

たとえば，交通機関が発達する。自動車や飛行機の数がふえ，そのスピードも大きくなってくる。そういうことで，世の中が大きく変わっていく。また，通信機関が発達し，電話や，ラジオ・テレビが普及する。そうして，また世の中が大きく変わっていく。こういう種類の変化は，これから先もたびたび起こるであろう。

ところで，こうした変化は，どうして起こったのだろうか。よく考えてみると，いちばん大きな原因として，人間の知識や技術が進んできたことの結果であることがわかってくる。一口に言うと，科学が進歩した結果，世の中が変わったのである。その科学は，人間が作り出し，考え出してきたものであって，生きた人間の営みの積み重ねの結果であることは，いうまでもない。科学だけではなくて，そのほかにも世の中を変えていくもとになるような人間の営みはいろいろあるが，要するに，これから先の世の中も，生きた人間の営みによって変わっていくのである。

そこで，皆さんに，そういう生きた人間の中に自分もはいっているのだということを，一度よく考えてほしいと思う。もしも皆さんが「自分の力は，ほんのわずかなもので，この世の中を変えるなどということはとうていできない。だから，自分は，変わっていく世の中の流れに順応していくよりしかたがない。」と考えるとすれば，それは大きな誤りである。ひとりひとの力はわずかなものであるにしても，そういう人たちのそれぞれの営みの結果として，この世の中が大きく変わっていくことは，否定できないからである。

変化といってもいろいろあって，どういう方向に向かって変化していくのがよいのか，これがまた，大きな問題である。なんとか，望ましい方向に変化させていかなければならないし，それに反することにならないように努力しなければならない。世の中の変化を，少しでもよい方向に向かわせるように，わずかでも貢献したいと考える，——考えるだけでなく，実際に努力する。そこに生きることの意義があると考えるべきではないだろうか。

もちろん，この世の中をよくするのに，どういうしかたで貢献するかということは，人によっていろいろと違いがあるであろう。そうして，自分はこういうやり方で努力してみたいと決心して，自分のやりたいと思う道を一つ選び，その道を進んだとしても，必ず成功するとはかぎらない。失敗に終わるかもしれない。しかし，成功するか失敗するかは，初めからわかっているものではない。努力すれば成功の可能性が大きくなると思って全力を尽くす。そこに，人間としての生きがいがあるのではないかと，わたしは思う。

近ごろ，若い人が昔よりも現実的になったといわれている。つまり，将来の見通しを立てて，年をとってからも困らないようにしようなどと考えるようになった，というのである。それは，むしろ，あたりまえのことかもしれない。それを，あながち悪いというわけではない。しかし，若い人が自分の生活の安定だけを考えているのでは，あまりにも寂しい。しかも，未来は現在とあまり違わないだろうと決め込んで，そのわくの中で暮らす場合だけを考えているのだとしたら，これは，寂しいだけではなしに，少しおかしいことである。また，それでは，本当の生きがいは感じられないであろうと思う。

「ほかの人がA大学にいくから，自分もそこにはいりたい。」「どこそこの会社に就職すれば，生活が安定するだろう。そのためには，どこそこの大学にはいるのがいいだろう。」といったような，消極的な考えの若い人ばかりになったら，いったいどうなるであろうか。

そうした人たちばかりの集まりとしての日本は，どういうことになるか。この地球における日本人の存在が，まことに影の薄いものになってしまうばかりでなく，ますます激しくなるで

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com